



12. 株価と世界の動きは繋がっている!?

— 「経済のグローバル化」って、どういう意味？

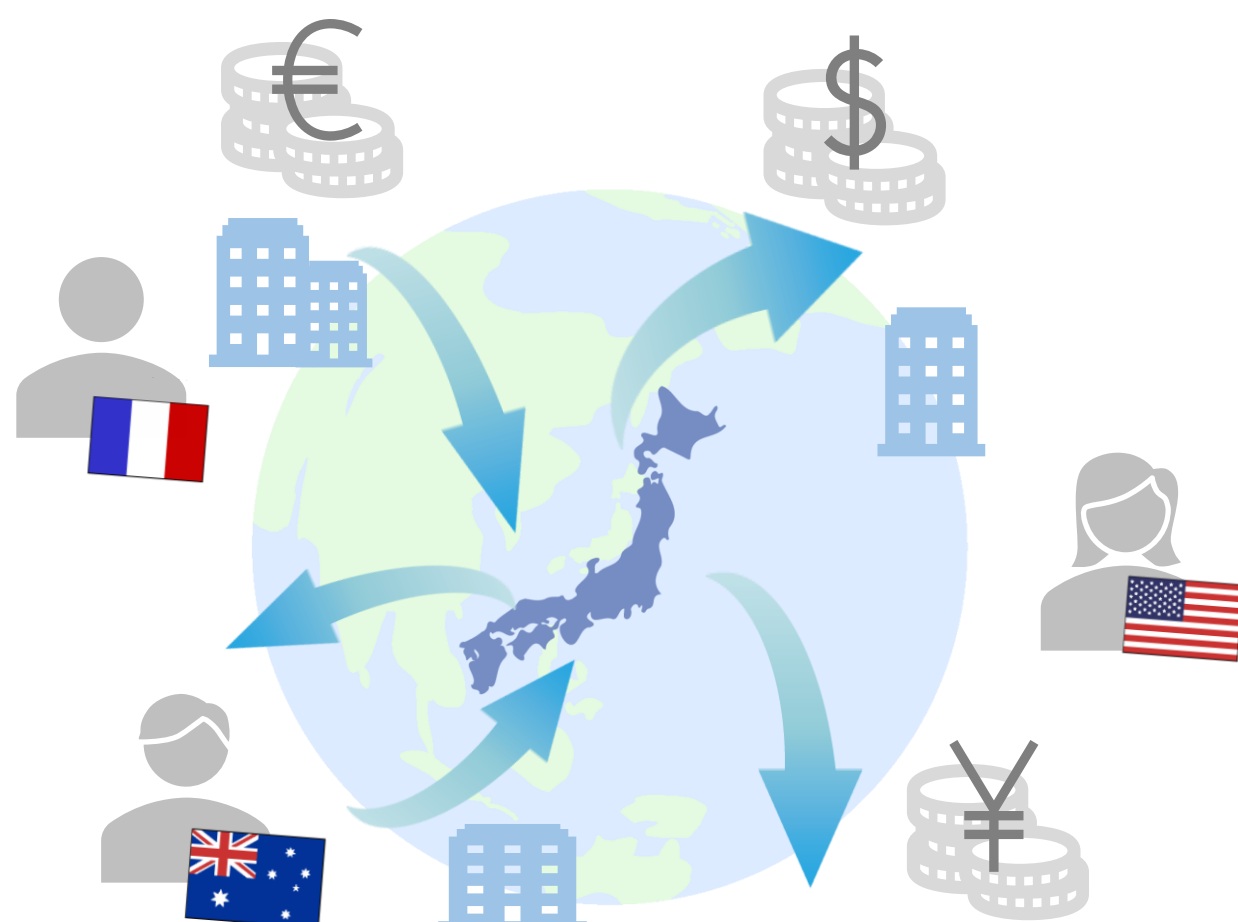
「経済のグローバル化」とは

日本国内を見ているだけでは、株価の先行きを見通すことはできません。

株価は、経済の大きな流れの中で上がったたり下がったりを繰り返しています。個々の企業が頑張っているとしても、経済全体がうまく動いていなければ、業績は伸び悩んでしまいます。

逆に、日本や世界の経済全体が好調になれば、企業の業績も伸びていきます。

国内外の経済に関するさまざまな出来事が企業の業績の先行きに影響を与え、株価を動かしています。



これまで日本は、世界の経済大国であるアメリカと密接な関係を築き、欧米諸国へ自動車や家電などを輸出してきましたが、輸出するモノも相手国も多様化してきています。

コンビニやスーパー、飲食など、海外ではあまり縁がないと思われていた分野の日本企業が、アジア諸国に進出して、店舗網を広げてはじめています。一方、欧米やアジアの企業も、日本に進出していて、国内企業にとっての強力なライバルになっています。

国と国との間でのモノの売り買い（＝貿易）や人の移動、国境を越えたお金の貸し借りや投資活動などが活発化して、**世界中の国同士の経済的な結びつきが強くなります。**

こうした世界経済の流れ全体を「**経済のグローバル化**」と呼びます。

どんな国々でどのような海外ビジネスを展開しているのか？各国の経済情勢はそれぞれどんな状態なのか？アメリカや中国の景気はこれからどうなるのか？

様々な要素、要因によって、日本企業の業績は大きく左右され、おのずと日本の株価の先行きも変化していくのです。

株式市場における外国人投資家の比重について

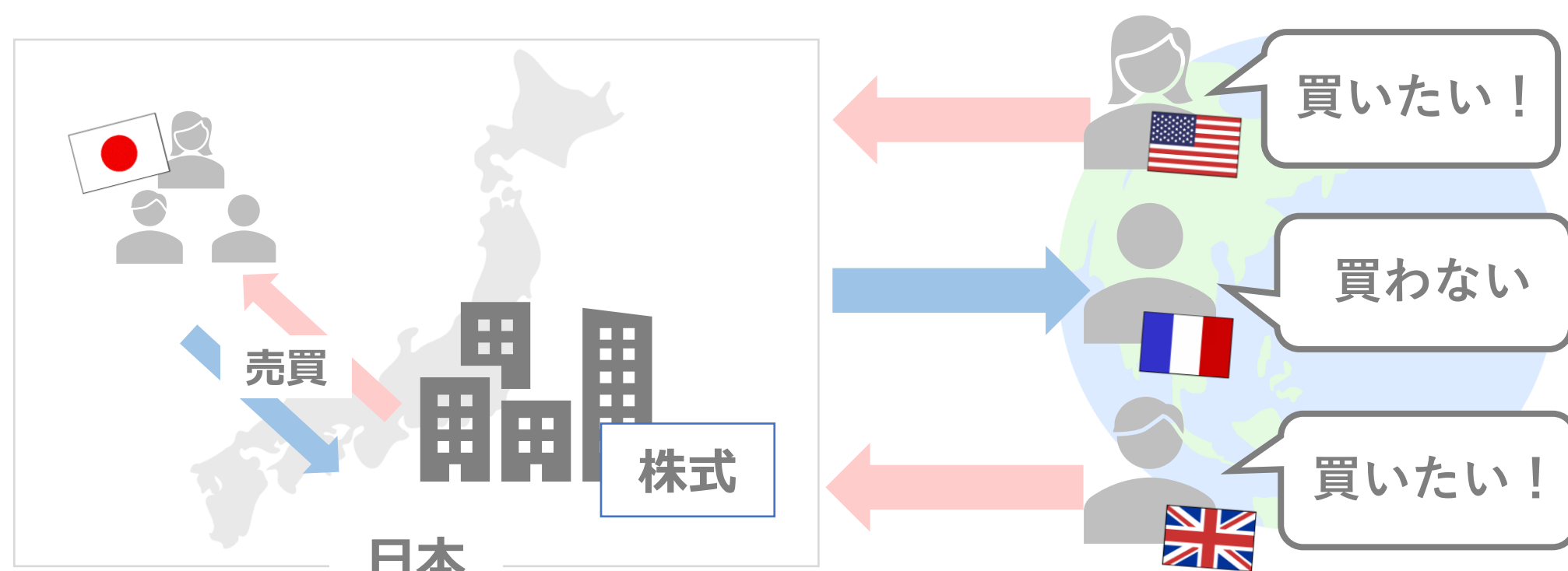
日本の株を売買しているのは、日本人投資家だけではありません。むしろ日本人投資家の方が少ないです。

インターネットなどの情報通信技術が発達したおかげで、国境を越えたお金のやりとりも簡単にできるようになり、**日本の投資家が海外の株式を買い、海外の投資家が日本の株式を買うといったことが、昔に比べて遥かに増えてきています。**

世界中の投資家たちはそれぞれ、様々な考え方に基づいて各国の株式市場で株式を売り買いしています。

「日本企業の業績は伸びそうだから、日本の株式を買っておこう」という投資家のお金が見舞いから日本に集まり、日本の株価が急激に上がることもあり得ます。

逆に「日本企業の業績は期待できないから、投資するのをやめて資金を抜き、新興経済国の株式を買っておこう」という投資家が増え、日本の株価が下落し、他の国の株価が上昇するということもあり得ます。



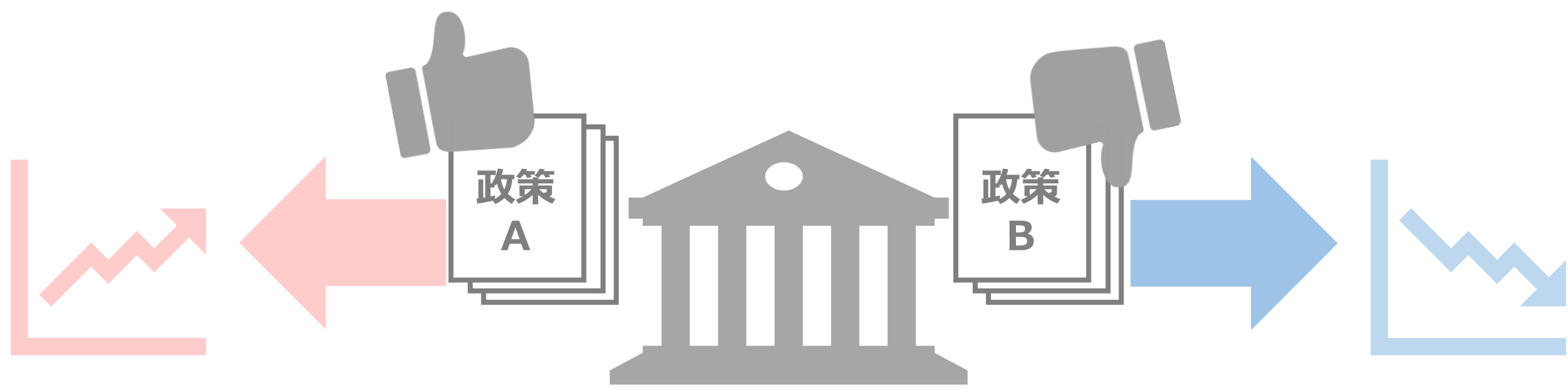
グローバル化で複雑になる株価の動き

経済のグローバル化が進んでいるということは、

海外との関係や政府の活動が、これまで以上に株価を動かす重要な要因だということです。

政府の政策に期待できれば、株価は上がる可能性があるし、

逆に、日本の景気は回復しないと考える投資家が多ければ、個々の企業の業績がよくても、日本の企業の全体の株価が下がる可能性もあります。



実際、株価の動きはとても複雑になっています。

2008年の秋、アメリカの大手証券会社のリーマン・ブラザーズの経営破綻がありました。当時のアメリカの金融機関を取り巻く経営環境が極めて悪化していることが明らかになり、金融機関同士のお金の流れは大きく縮小し、アメリカ国内はもちろん、ヨーロッパ諸国の株価や景気にまで深刻な影響を与えました。

この一連の出来事を「リーマンショック」と呼びます。



リーマンショックでは、アメリカやヨーロッパでの投資を埋め合わせるために、

日本の株式を売り払う投資家も出てきた結果、日本の株価も大幅に下がりました。

このときの株価の下落幅の大きさは、当時の日本企業の業績状況だけでは説明がつかないものでした。

経済のグローバル化が進み、その結果、株価の動きが今まで以上に複雑になっています。

株式を学ぶ上では、このような新しい動きについて学び続ける必要があります。

魔弾の結論

POINT

01

経済のグローバル化が進み、株価の動きがより複雑に

日本国内を見ているだけでは、企業の業績や株価の先行きは見通せない時代になってきている

POINT

02

多角的に学ぶ目線を身につけることが大事

